県営溜め池整備事業（古沢用水改良工事）
に係る埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告

富山県　婦中町

小長沢Ⅰ遺跡発掘調査報告

１９９７年3月

婦中町教育委員会

序

今回、古沢用水改良工事が実施されるのに先だち、この小長沢Ｉ遺跡の発掘調査を射水丘陵の東側斜面で実施いたしました。そこから発見された戦国時代の掘立柱建物跡は周囲の地形を活かして防御性を持たせたものと推定され、祖先の自然を活用する想像力のすばらしさが感じられます。これらは郷土の歴史を学ぶための貴重な資料となるものと思います。

本報告書は小冊子でありますが、文化財に対する一層の理解にご活用いただければと願っています。

最後に快く調査にご協力いただきました地元の方々や県関係の方々に深く感謝を申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導ご支援をお願いいたしまして、はじめのごあいさつといたします。

平成９年３月

婦中町教育委員会

教育長　清水　信義

例　言

1　本書は富山県婦負郡婦中町小長沢字宮ノ高地内に所在する小長沢Ｉ遺跡の発掘調査報告である。

2　調査は県営溜め池整備事業（古沢用水改良工事）の実施に先立ち、富山県農地林務部富山農地林務事務所の依頼を受けて婦中町教育委員会が実施した。調査の実施にあたっては、富山県埋蔵文化財センターから調査担当者の派遣を受けた。

3　調査費は文化庁と農林省の「覚書」第５項の規定に基づき、富山県農地林務部富山県農地林務事務所の原因者負担を受けた。

4　調査事務局は婦中町教育委員会生涯学習課に置き、文化振興係長山田茂信が調査事務を担当し、課長鍋山徹が総括した。また、調査にあたって作業員の確保については株式会社花崎工業の協力を得た。

5　調査期間　平成８年４月９日～５月９日　　調査面積　180㎡

6　試掘調査・本調査担当者および調査員は次のとおりである。

試掘調査	平成７年度	担当者	婦中町教育委員会	文化財保護主事　片岡英子
本調査	平成８年度	担当者	婦中町教育委員会	文化財保護主事　堀内大介
			富山県埋蔵文化財センター	文化財保護主事　高梨清志

7　資料の整理、本書の編集と執筆は、富山県埋蔵文化財センターの職員の協力を得て、調査担当者がこれに当った。

8　調査期間中および資料整理期間中、次の方々から有益な教示と助言を頂いた。記して謝意を表したい。

安念幹倫・河西健二・宮田進一

9　本書の挿図・写真図版の表示は次のとおりである。

(1)　方位は真北、水平基準は海抜高である。

(2)　基準杭は任意に２点設定した（Ｘ１・Ｙ０～Ｘ17・Ｙ０）。０原点は、国家座標のうち、Ｘ＝73.84km・Ｙ＝－29.08kmの点に設定した。なお、基準杭のＸ軸は真北から38°17′東に偏る。

(3)　遺構の表記は次の記号を用いた。掘立柱建物：ＳＢ　溝：ＳＤ　穴・土坑：ＳＫ　柱穴：ＳＰ

(4)　挿図の遺物の縮尺は、１／３に統一した。写真図版の遺物の縮尺は１／２に統一した。

10　出土品および記録資料は、婦中町教育委員会が保管している。

11　発掘調査・遺物整理参加者は次のとおりである。

生田寿美子・中坪千春（整理作業員）河西英津子・藤田良子（調査補助員）

本文目次

序文
例言
目次
Ⅰ　位置と環境……1
1　地理的環境……1
2　歴史的環境……1
Ⅱ　調査に至る経緯と経過……3
Ⅲ　調査の結果……4
1　地形と層序……4
2　遺構……4
3　遺物……5
Ⅳ　まとめ……6
参考文献……6

挿図目次

第1　位置と周辺の遺跡
第2　調査対象範囲と区割図
第3　基本層位模式図
第4　遺構図、ＳＤ01・ＳＫ03
第5　調査区壁面断面図
第6　ＳＢ01・ＳＸ01・ＳＫ02
第7　ＳＫ01・石列、出土遺物実測図

表1　遺跡名一覧
表2　試掘調査結果

Ⅰ　位置と環境

1　地理的環境（第１図）

本書で報告する小長沢Ⅰ遺跡は、富山県婦負郡婦中町小長沢地内に所在する。

富山県は、東側に3,000m級の山々が連なる北アルプス、南は飛騨山地、西側は石川県との県境に延びる両白山地、北は富山湾に囲まれている。また、飛騨山地から延びる小起伏地である呉羽丘陵は、富山県を中央部で「呉西」「呉東」に二分する。婦中町は、呉東にあるが、位置的には富山県のほぼ中央部にあり、北側は県庁所在地である富山市と接している。

町の地形は丘陵部と平野部の二つに大きく区分される。丘陵部は先述した呉羽丘陵から射水丘陵を経て、南の牛岳へと連なる丘陵地で町の西部を占め、平野部は神通川とその支流である井田川によって形成された扇状地で町の東部を占める。

小長沢Ⅰ遺跡は町西部の丘陵上に立地する。遺跡の現状は畑地・山林・竹林等である。遺跡の立地する丘陵からは富山平野や立山連峰が一望することができる。現在一帯は県道八尾・小杉線に沿って新町・二本榎・平岡・総野等の集落が形成されている。

2　歴史的環境（第１図）

小長沢Ⅰ遺跡の立地する丘陵上には、旧石器時代から中近世に至る各時代の遺跡が数多く存在し、県下でも有数な遺跡の密集地帯として知られている。周辺の代表的な遺跡としては、友坂遺跡（縄文・奈良・平安・中世・近世）、平岡遺跡（縄文）、新町Ⅱ遺跡（縄文・奈良・平安・中世・近世）、各願寺前遺跡（縄文・奈良・平安・中世）、千坊山遺跡（旧石器・縄文・弥生・奈良・平安・中世）、杉谷古墳群・小長沢古墳群・添ノ山古墳群・新町横穴墓・新町大塚古墳（古墳）などがある。小長沢Ⅰ遺跡の南西約 1.5kmに国指定史跡の王塚古墳、そして谷一つ隔てたその南に県指定史跡の勅使塚古墳がある。

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	小長沢Ⅰ	古代(奈良・平安)・中世	22	下邑	不明
2	小長沢北塚	不明	23	添ノ山古墳群	古墳
3	総野Ⅳ	縄文	24	新町大塚古墳	古墳
4	総野Ⅲ	縄文・古墳	25	新町Ⅱ	縄文・古代(奈良・平安)・中世・近世
5	総野Ⅱ	縄文	26	羽根北	不明
6	総野Ⅰ	不明	27	王塚古墳北	縄文
7	友坂	縄文・古代(平安)・中世(鎌倉・室町)	28	王塚古墳	古墳（初期）
8	友坂天神	縄文・古代	29	新町横穴墓	古墳
9	友坂金城坊	古代？	30	勅使塚古墳	古墳（初期）
10	杉谷古墳群	縄文・弥生末・古墳	31	各願寺前	縄文・古代(奈良・平安)・中世(戦国)
11	総野Ⅵ	不明	32	古里保養園前	縄文
12	野下	旧石器・縄文(中期・晩期)・古代(奈良)	33	向野塚	不明
13	大開Ⅱ	不明	34	六治古塚	不明
14	平岡	縄文	35	千坊山	旧石器・縄文・弥生・古代(奈良・平安)・中世(鎌倉・室町)
15	小長沢古墳	古墳	36	鏡坂Ⅱ	中世(鎌倉・室町)
16	宮の高A	縄文	37	富崎城西	縄文
17	宮の高B	縄文	38	富崎城	縄文・弥生・中世
18	新開	不明	39	富崎	弥生・古墳・古代(奈良・平安)・中世(鎌倉・室町)・近世
19	二本榎Ⅱ	縄文・古代(奈良)・近世	40	上吉川Ⅰ	古代(奈良・平安)・中世(鎌倉・室町)・近世
20	新町Ⅰ	古代(奈良・平安)	41	下邑東	古代（平安）
21	新町Ⅲ	古代(奈良・平安)	42	鶴ヶ城	中世(鎌倉・室町)

表１　遺跡名一覧

第１図　位置と周辺の遺跡（1/20,000）

II　調査の至る経緯と経過

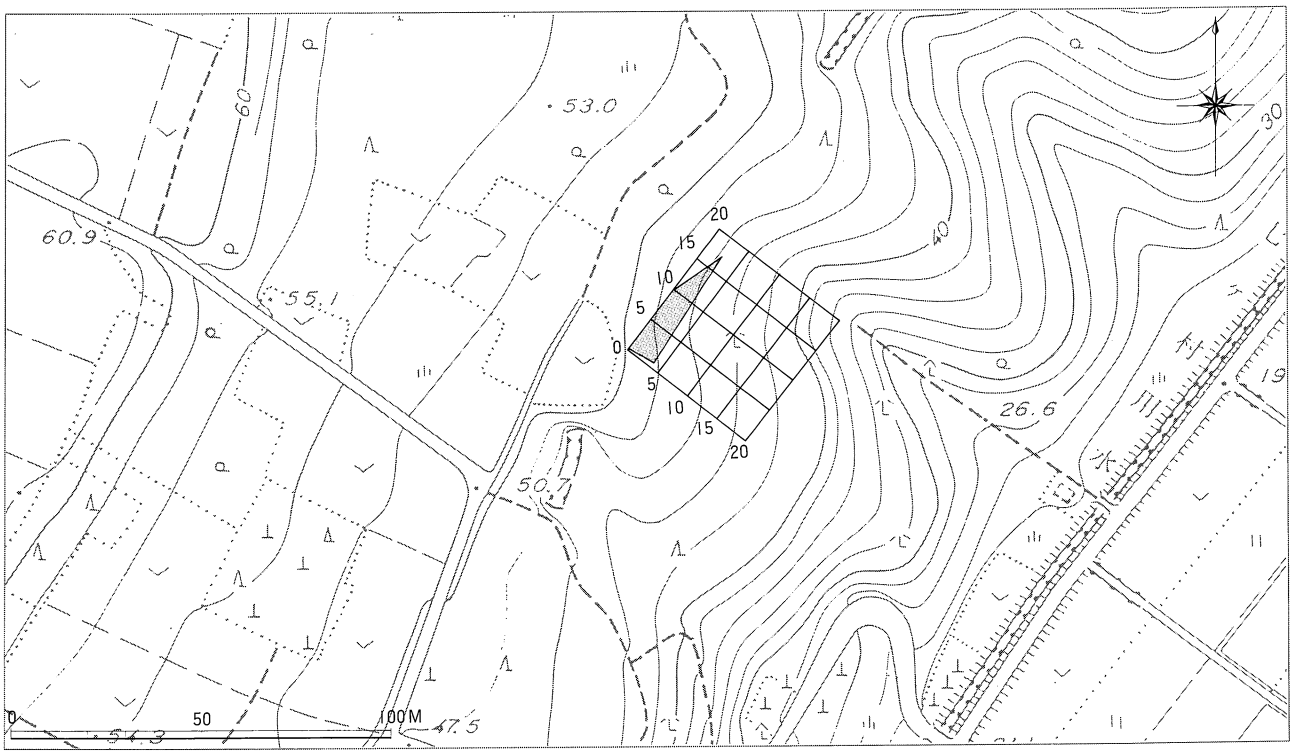
呉羽・射水丘陵の山麓で県営溜め池用水等整備事業（古沢用水改良工事）が昭和59年度から実施されることになった。そこで婦中町教育委員会では、当該地が遺跡の集中地帯であることを考慮して事前に分布調査を実施した。調査は富山県埋蔵文化財センターの指導を得て行い、その結果、事業区域内で多くの遺跡を新たに発見した。分布調査の結果から事業区域内に係る遺跡に関して、遺跡の範囲・性格を把握するため試掘調査を行った。平成７年度、小長沢Ⅰ遺跡の試掘調査の結果、事業区域内に係る遺跡の面積は約180㎡であることが確認された。その為、事業主体である県耕地課・農地林務事務所と町教育委員会との間で事前協議がもたれ、事業実施にあたり遺跡破壊のおそれのある部分について記録保存を前提に本調査を行うことになった。

発掘調査面積は180㎡で、まずは試掘調査の結果をもとに重機による表土掘削を行った。次に基準杭の設定を行い、２×２ｍを一区画とした調査区を設けた。その後、人力による遺構の検出と掘削を行い、引き続き、図化・記録作業に入った。調査期間は４月９日～５月９日であった。

表２　試掘調査結果

試掘年月	遺　跡　名	時代
S 60. 4	二 本 榎 II	縄文・古代（奈良）・近世
H 2. 12	小 長 沢 I	古代（奈良・平安）・中世
H 3. 9	小 長 沢 I	古代（奈良・平安）・中世
H 3. 11	小長沢古墳群	古　　墳
H 4. 11	新　町　I	古代（奈良・平安）
H 4. 11	二 本 榎 II	縄文・古代（奈良）・近世

試掘年月	遺　跡　名	時代
H 5. 12	宮 の 高 A	縄　　文
H 5. 10	新　町　I	古代（奈良・平安）
H 6. 12	宮 の 高 A	縄　　文
H 6. 12	宮 の 高 B	縄　　文
H 7. 2	小 長 沢 I	古代（奈良・平安）・中世



第２図　調査対象範囲と区割図（1/2,000）

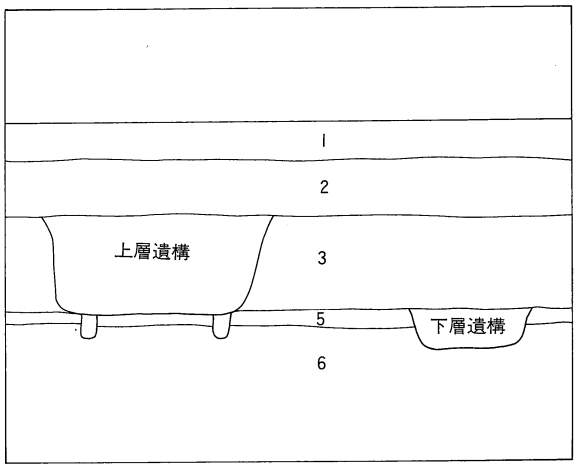
Ⅲ　調査の結果

1　地形と層序（第３図）

本遺跡は南北に延びる射水丘陵の東側の山裾に立地し、標高45～54mである。

調査区の基本層位は、上から順に１層：暗褐色シルト（表土）、２層：暗褐色シルト、３層：黒褐色シルト（上層遺構構築面）、５層：褐色シルト（漸移層、一部礫が混ざる）、６層：浅黄色シルト（地山、一部礫が混ざる）である。

調査区は、過去に緩やかな斜面を段差のある耕作地として利用されており、調査区北東部は削平を受けて、１・２層直下で地山に達する。



第３図　基本層位模式図

2　遺　構

検出した遺構は掘立柱建物１棟・土坑・溝等である。遺構面は中世、中世以前（時期不明）の２時期が確認できた。

(1)　上　層

(a)　掘立柱建物

掘立柱建物の表現は、河西氏（河西1994）の研究成果に倣って、建物単位構造の中核をなす中核屋と下屋を構成する補助屋とを使用し、柱列は柱穴番号－柱穴番号と表す。また、付属する遺構については、可能性のあると思われるものも取り上げた。

ＳＢ01（第６図）

調査区南部で検出した。建物の主軸方位は、Ｎ－55°－Ｗである。建物は調査区東側に延びる。1－3・3－10の中核屋と3－4・4－8の北側の補助屋および13－14・10－14の東側の補助屋で形成される建物である。中核屋の面積は約４㎡、北側・東側の補助屋を含めた総面積は約７㎡である。中核屋の間尺は、1－3間75cm＋85cm、3－10間120cm＋55cm＋85cmを測る。補助屋（北）の間尺は、3－4間120cm・4－8間70cm＋70cmを測る。補助屋（東）の間尺は、13－14間115cm、10－14間85cm＋115cmを測る。それぞれの柱穴規模は一部を除き特に目立った差は見られず、中核屋部分と補助屋部分との差も見られない。柱穴規模の平均は、直径32cm深さ23cmである。ＳＰ７から幅14cmの柱痕跡が確認できる。建物は、土坑状遺構（ＳＸ01）の掘り込みに沿って、柱穴が配してある。この建物には石列を伴うＳＫ01、建物内にＳＫ02がみられる。ＳＢ01には出土遺物がなく、ＳＢ01の時代特定は難しいが、共伴遺構と思われるＳＫ01から中世土師器が出土しており、中世の建築物と思われる。

(b)　土　坑

ＳＫ01（第７図）

ＳＫ01は、ＳＢ01の南側に位置する土坑で、ＳＸ01・ＳＢ01に切られる。東側は、調査区外へ延びる。平面形は、長軸340cm短軸200cmの不整形で、深さは最深部で約140cmである。覆土は黒褐色シルト・黒褐色シルト（地山ブロック・霜ふり状混）が互層をなす。ＳＫ01の上には一辺30～50cmの河原石と拳大の河原石が一面広がっていた。壁面のセクション断面には、石がきれいに２段に積まれており、ＳＢ01が建っていた当時は石がＳＢ01に沿って２段に積んで並べられ、ＳＢ01の廃棄とともに崩れた可能性がある。遺物は、中世土師器（１）が出土した。

ＳＫ02（第６図）

ＳＫ02は、ＳＢ01内にある土坑で、長軸約80cmの楕円形で深さ約10cmである。覆土は単層で、ＳＢ01の柱穴①層と

同じである。

(c) **溝**

ＳＤ01（第４図）

調査区中央部で検出し、東西方向に走る。ＳＤ01の主軸方位は、Ｎ－48°－Ｗであり、ＳＢ01の主軸方向とほぼ一致し、ＳＢ01の区画溝の可能性がある。幅約180cm深さ約50cmである。東側は削平を受け、西側は調査区外へ延びる。遺物は中世土師器（２）が出土した。

(d) **その他の遺構**

ＳＸ01（第６図）

調査区南部で検出した。平面形は、不整形の土坑状遺構で、長軸540cm短軸140～370cm深さ約50cmである。底面には褐色シルトが貼り床状に一部敷かれ、平面形に沿って柱穴が配されていた。覆土は単層で、黒褐色シルト（地山霜ふり状混）である。出土遺物はなかったが、ＳＫ01と掘り込み面が同じであり、中世の遺構と思われる。

(2) **下　層**

(a) **土　坑**

ＳＫ03（第４図）

調査区中央部で検出した。平面形は、不整形で、長軸180cm短軸75cm深さ約30cmである。出土遺物もなく、時期の特定は難しい。

3　遺　物

今回の調査で出土した遺物は須恵器、中世土師器、打製石斧等である。遺物量が少ないため、遺構・包含層に関係なく器形が判るものに関しては出来る限り図化し、載せることに努めた。記述の方法は遺構出土の遺物は遺構ごとに載せた。なお、中世土師器に関しては、これまでの研究成果（宮田1992・酒井1996）に従った。

(1) **土　坑**

ＳＫ01（第７図）

１は中世土師器で口径８cm、非ロクロで、口縁端部・見込みに煤がつく。底部はやや丸底を呈し、口縁端部が内に丸くなり、少し肥大する。灯明皿に用いられていたと思われる。時期は16世紀前半から中頃である。

(2) **溝**

ＳＤ01（第７図）

２は中世土師器で、口径8.8cm、非ロクロで、口縁端部に煤がつく。口縁端部を強くナデ、小さく外反する。時期は16世紀前半から中頃である。

(3) **遺構外出土遺物**

遺構外からは、須恵器、中世土師器、打製石斧等が出土している。３は須恵器の甕の胴部片である。４は打製石斧である。全長149mm、全幅102mmを測る。撥型であり、側縁部はやや内湾する。石材は花崗岩である。中世土師器は小破片のため、図示しなかった。

Ⅳ　まとめ

発掘調査の成果から、小長沢Ⅰ遺跡の性格などを列記してまとめとする。

1．縄文時代、奈良・平安時代、中世の遺物が出土し、戦国時代の掘立柱建物が発見された。

2．調査区南部で検出された掘立柱建物は、土坑状遺構ＳＸ01を掘り、それに沿って柱穴を配して建てられいた。建物の南側には石列を伴う土坑ＳＫ01がある。ＳＫ01は生活時に埋め戻されている。石列はＳＫ01を埋め戻す際に構築され、ＳＢ01に沿って２段に積んで並べられていたと思われる。建物は、同時期の平野部の掘立柱建物に比べ、面積も小さく、小屋程度の建物であったと思われる。また、区画溝と思われる溝も確認されていることから調査区の周りに小規模な村が存在していたのかもしれない。

参考文献

宇野隆夫　1986「越中弓庄城跡の土師器－中世の北陸と畿内－」『大境』第10号　富山考古学会

河西健二　1994「雑記　建物遺構」『埋蔵文化財年報（５）』（財）富山県文化振興財団埋蔵文化財査事務所

河西健二　1994「中世末から近世の建物」『梅原護摩堂遺跡発掘調査報告書』（財）富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

酒井重洋ほか　1996「Ⅲ　公害防除特別土地改良事業関連調査」『埋蔵文化財調査概要－平成７年度－』（財）富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

富山県埋蔵文化財センター　1993『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』

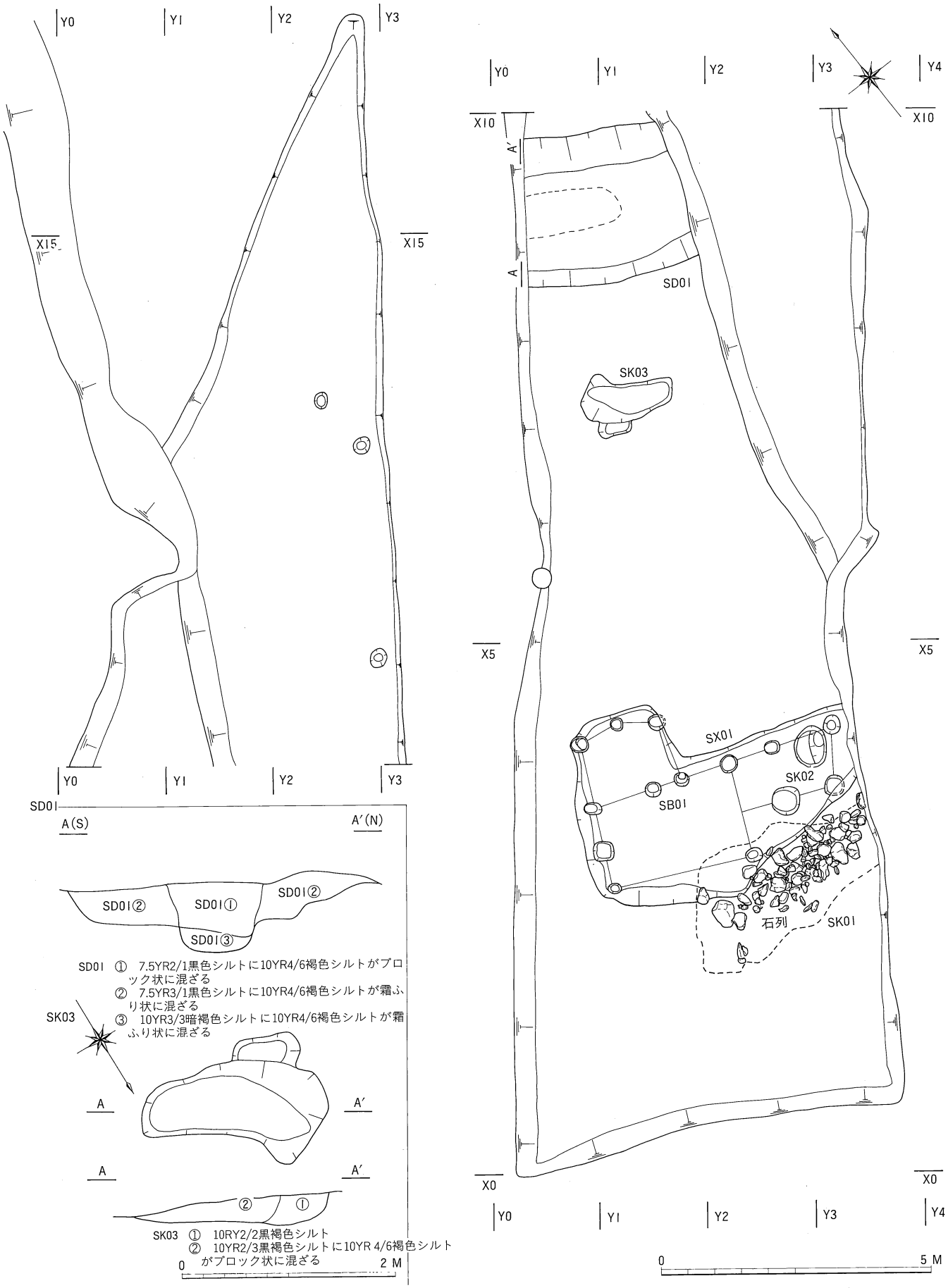
日本民家園　1993「民家の立地と屋敷構え」『川崎市立　日本民家園』

婦中町教育委員会　1993『富山県婦中町　小倉中稲遺跡発掘調査報告』

婦中町教育委員会　1994『富山県婦中町　小倉中稲遺跡発掘調査報告（２）』

婦中町教育委員会　1995『富山県婦中町　中名Ⅱ遺跡発掘調査報告』

宮田進一　1992「越中における中世土師器の編年」『中世前期の遺跡と土器・陶磁器』中世土器研究会



第4図　遺構図（1/100）、**ＳＤ01・ＳＫ03**（1/50）

東壁　L＝47.8M

(N)　　(S)

SX01①　SK01①　SX01②　SK01⑤　SK01⑥　SK01②　SK01④

西壁

48.60M(S)　48.60M

48.60M　48.60M

木

47.80M　47.80M

SD01②　SD01①　SD01②　SD01③　根

47.80M　47.80M

47.10M

基本層位

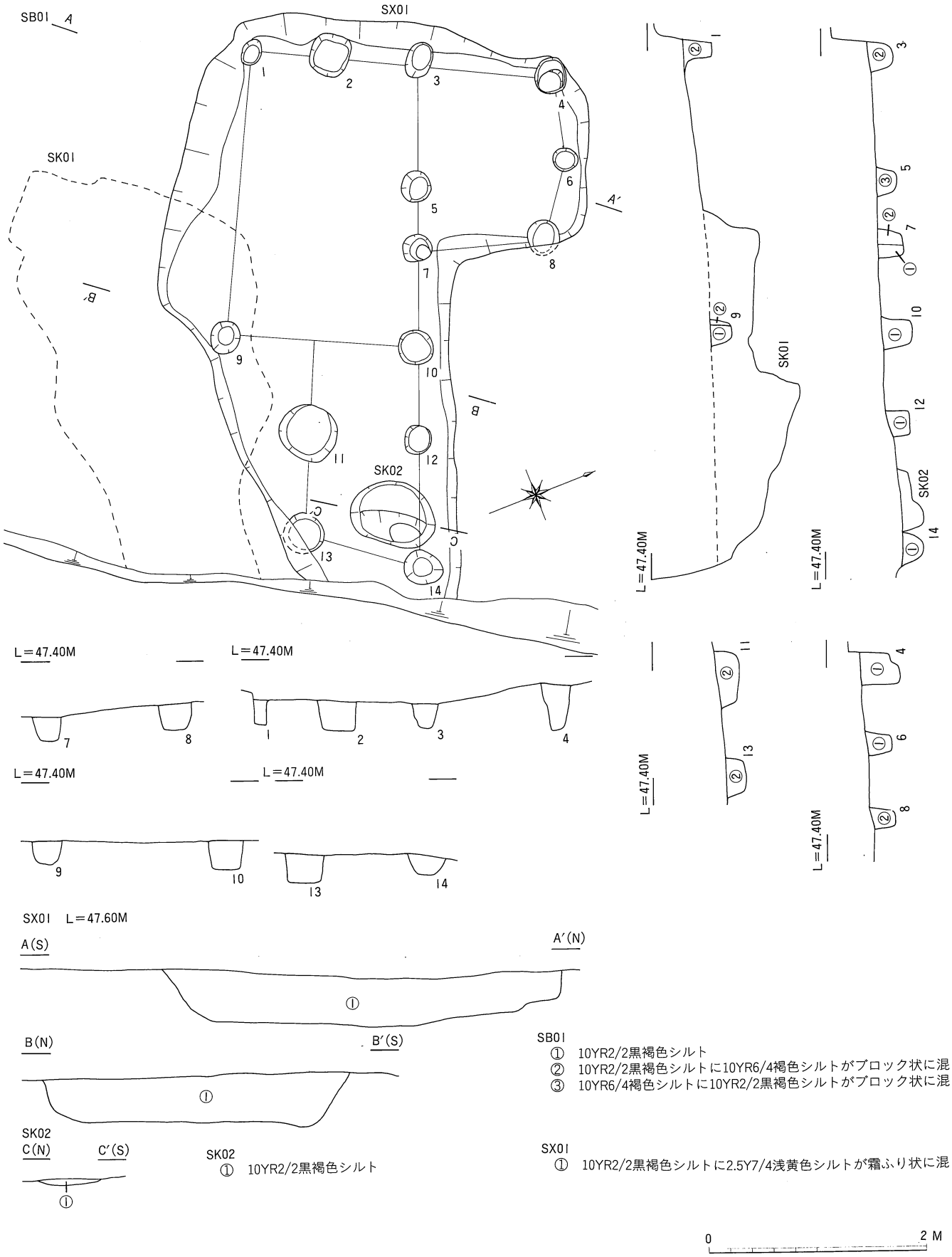
1　10YR4/3暗褐色シルト〈表土〉
2　10YR3/3暗褐色シルト
3　7.5YR2/2黒褐色シルト
4　7.5YR2/1黒色シルトに10YR4/6褐色シルトが霜ふり状に混ざる
5　10YR4/6褐色シルトに一部礫が混ざる
6　2.5Y7/4浅黄色シルトに一部礫が混ざる〈地山〉

SX01
②　10YR4/6褐色シルト

0　1　2 M

47.10M　47.10M(N)

第 5 図　調査区壁面断面図（1/50）

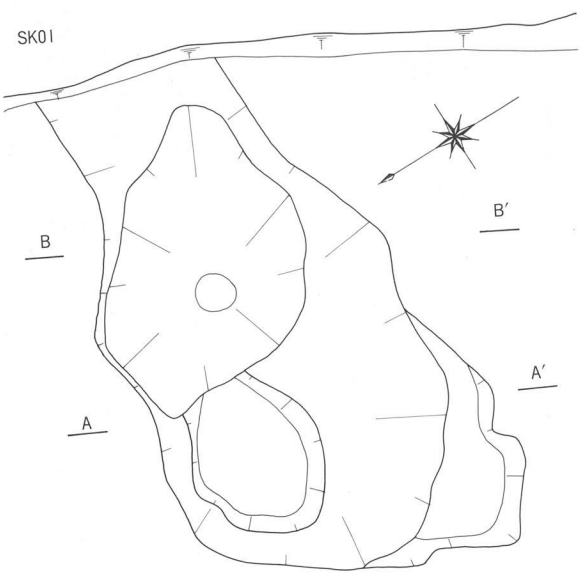


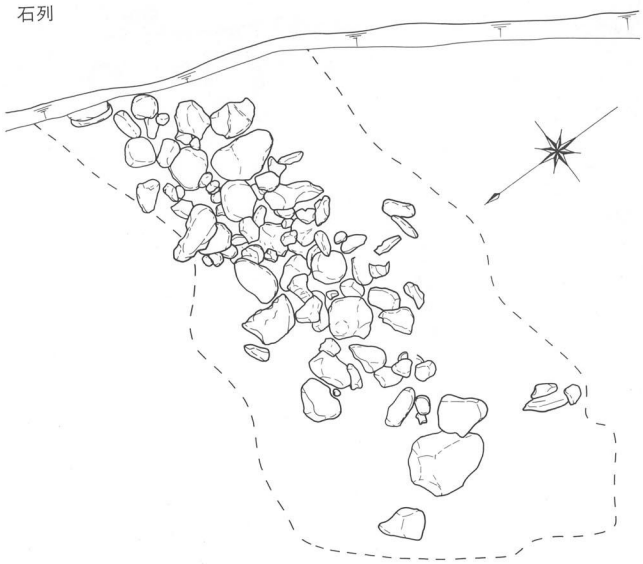
SB01
① 10YR2/2黒褐色シルト
② 10YR2/2黒褐色シルトに10YR6/4褐色シルトがブロック状に混ざる
③ 10YR6/4褐色シルトに10YR2/2黒褐色シルトがブロック状に混ざる

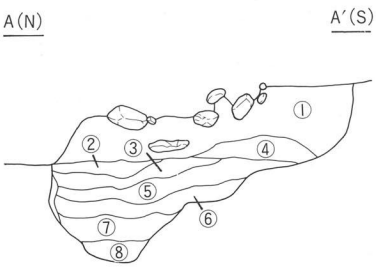
SX01
① 10YR2/2黒褐色シルトに2.5Y7/4浅黄色シルトが霜ふり状に混ざる

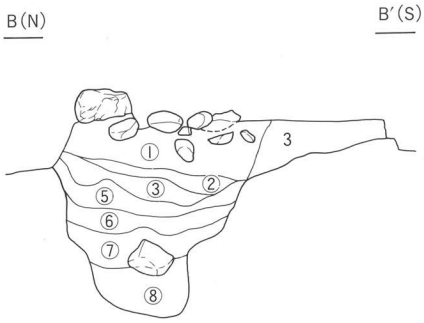
SK02
① 10YR2/2黒褐色シルト

第6図　ＳＢ01・ＳＸ01・ＳＫ02 (1/50)







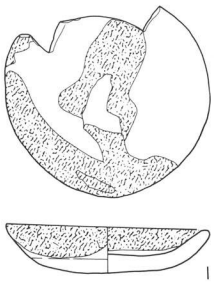


SK01
① 10YR3/2黒褐色シルト
② 10YR4/3にぶい黄褐色シルトに10YR4/6褐色シルトが霜ふり状に混ざる
③ 10YR3/1黒褐色シルトに2.5Y7/4浅黄色シルトがブロック状に混ざる
④ 7.5Y3/2黒褐色シルト
⑤ 2.5Y3/1黒褐色シルトに2.5Y7/4浅黄色シルトが霜ふり状に混ざる
⑥ 7.5Y3/1黒褐色シルト
⑦ 10YR2/2黒褐色砂質シルトに2.5Y7/4浅黄色シルトが混ざる
⑧ 7.5Y2/1黒色シルトに2.5Y7/4浅黄色シルトが混ざる

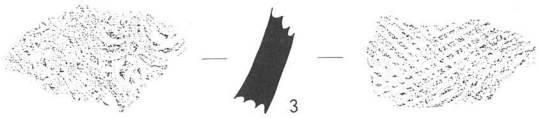
0 1 2 M

出土遺物

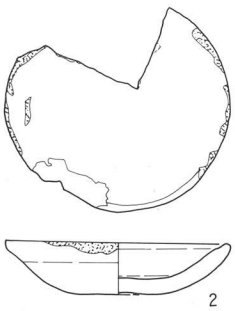
SK01

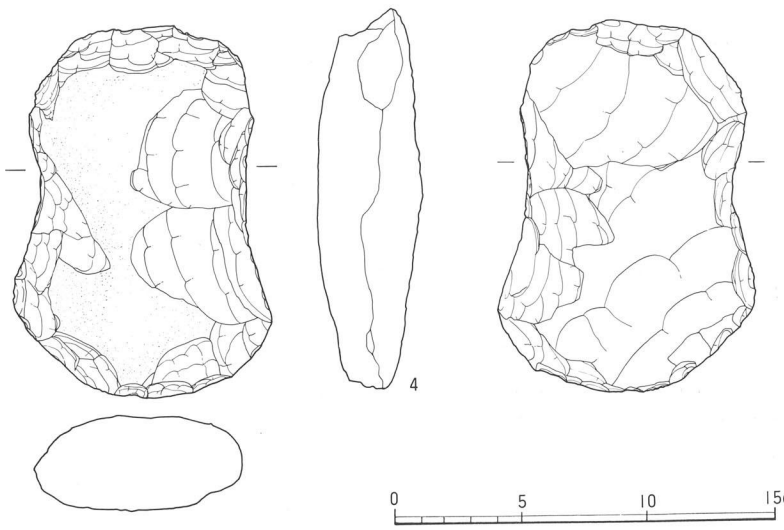


遺構外



SD01





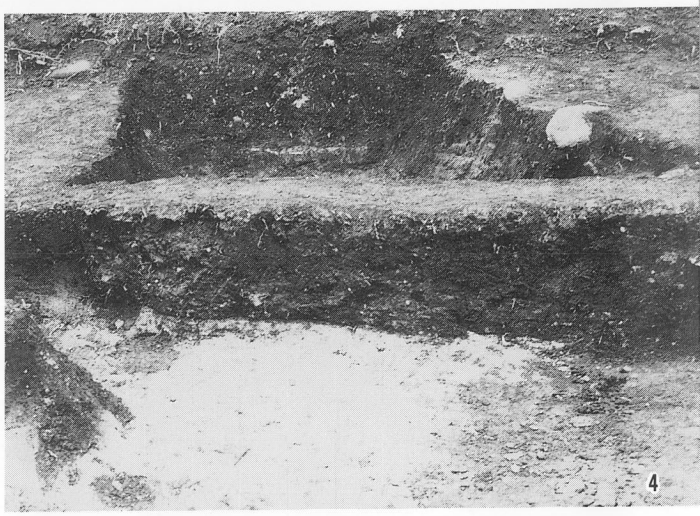
煤・タール

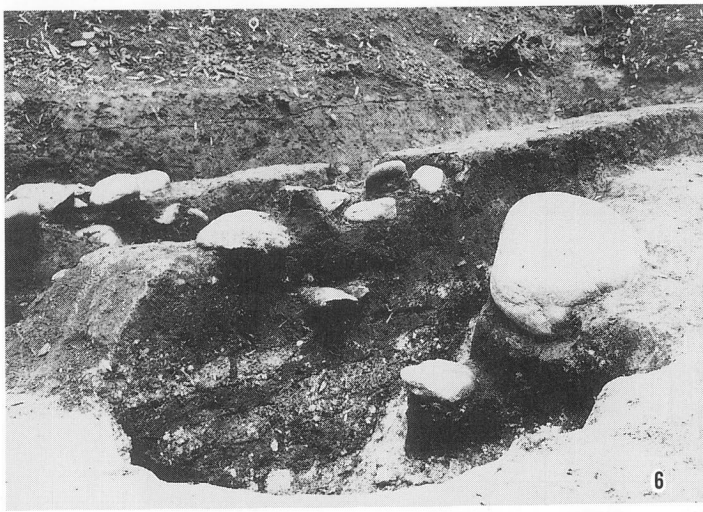
0 5 10 15cm

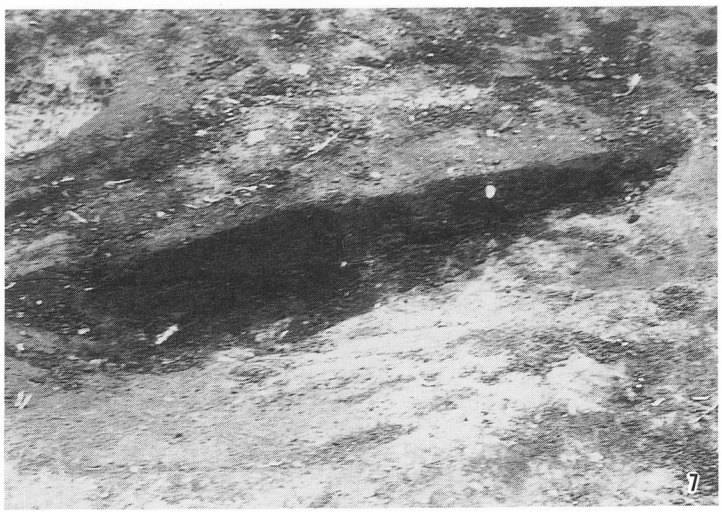
第7図　SK01・石列（1/50）、**出土遺物実測図**（1/3）

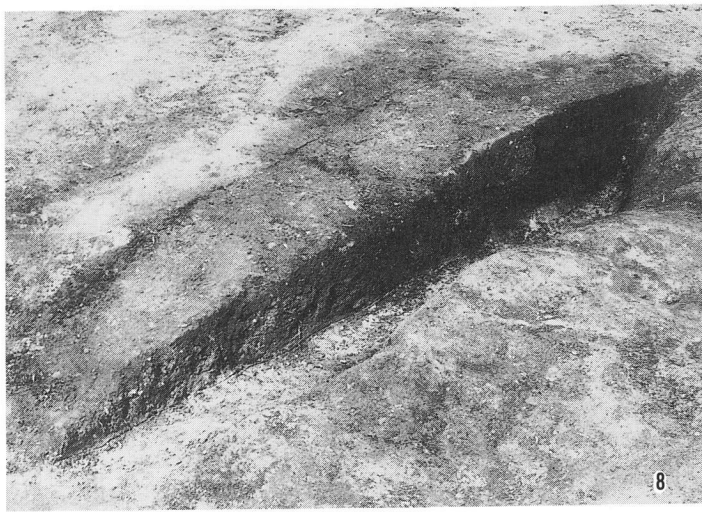
図版 1　航空写真（1/10,000）　　国土地理院（昭和20年　米軍撮影）

図版 2　1．上層検出遺構（南から）　2．下層検出遺構（南から）

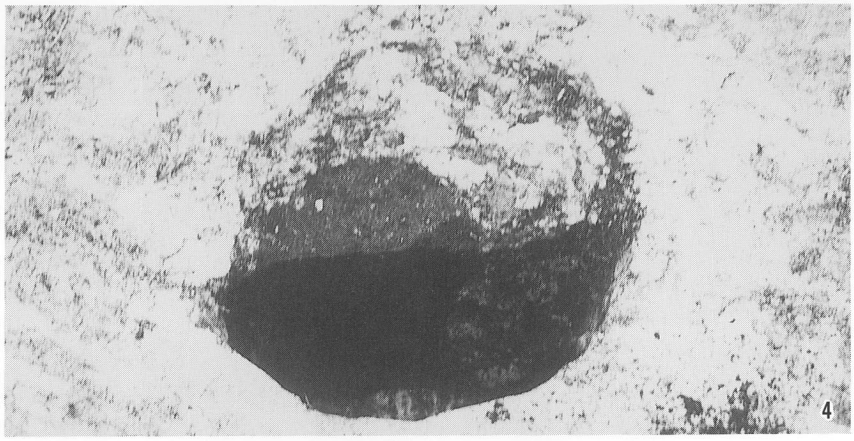


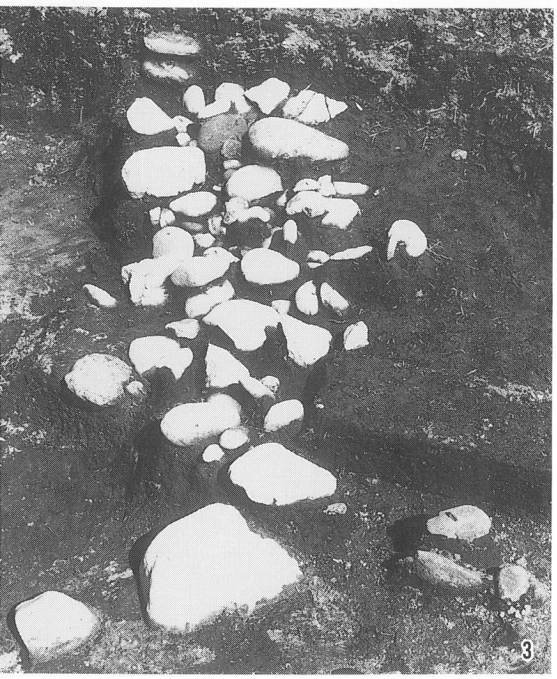


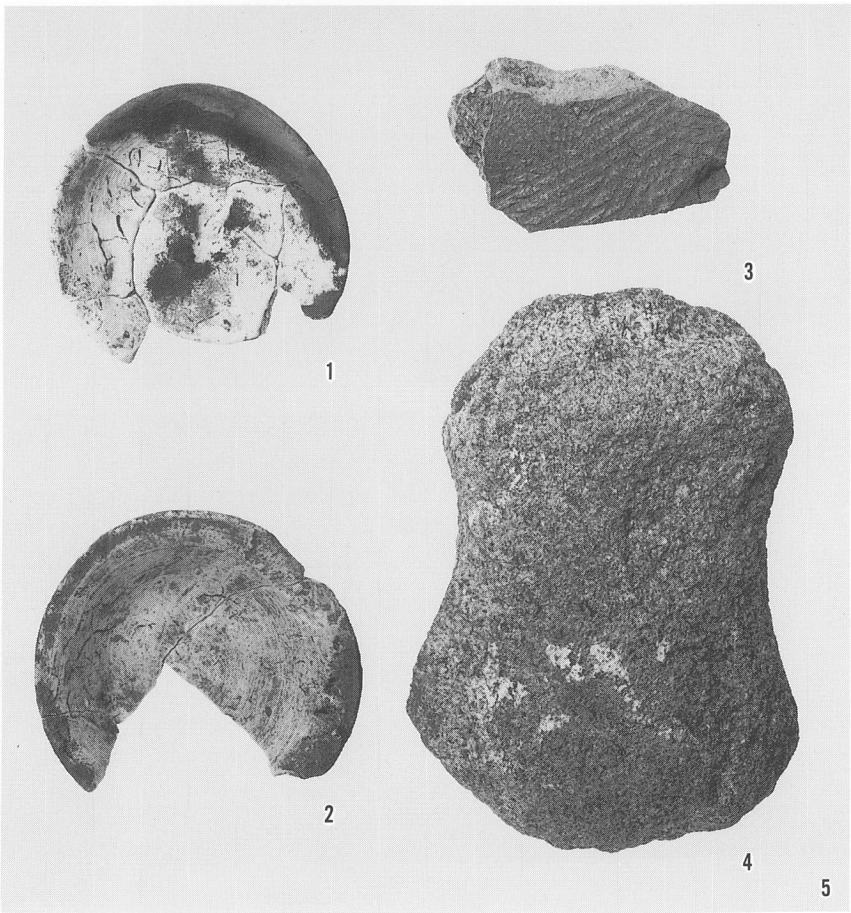




図版 3　1．作業風景（西から）　2．ＳＤ01（東から）　3．ＳＸ01Ａセク（東から）　4．ＳＸ01Ｂセク（西から）
5．ＳＫ01Ｂセク（西から）　6．ＳＫ01Ａセク（西から）　7．ＳＫ02（西から）　8．ＳＫ03（北から）







図版 4　1．ＳＢ01（南から）　2．ＳＫ01（西から）　3．石列（西から）　4．ＳＰ07（北から）

5．出土遺物（数字は実測番号）

報告書抄録

ふりがな	こながさわ　いせきはっくつちょうさほうこく
書名	小長沢Ⅰ遺跡発掘調査報告
シリーズ名	県営溜め池整備事業(古沢用水改良工事)に係る埋蔵文化財調査報告
編集者名	堀内大介
編集機関	婦中町教育委員会
所在地	〒939-27　富山県婦負郡婦中町速星754　TEL　0764-65-2111
発行機関	婦中町教育委員会
所在地	〒939-27　富山県婦負郡婦中町速星754　TEL　0764-65-2111
発行年月日	西暦1997年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
小長沢(こながさわ)Ⅰ遺跡	富山県(とやまけん)婦負郡(ねいぐん) 婦中町(ふちゅうまち)小長沢(こながさわ)	016362	011	36°39′53″	137°8′2″	960409 ～960509	180	県営溜め池整備事業 (古沢用水改良工事) に係る事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
小長沢Ⅰ遺跡	集落	縄文 古代 中世	掘立柱建物 溝 土杭	打製石斧 須恵器 中世土師器	

平成9年3月31日発行

富山県婦中町
小長沢Ⅰ遺跡発掘調査報告

編集　婦中町教育委員会
発行　婦中町教育委員会
富山県婦負郡婦中町速星754
印刷　㈱チューエツ